

宿ものがたり

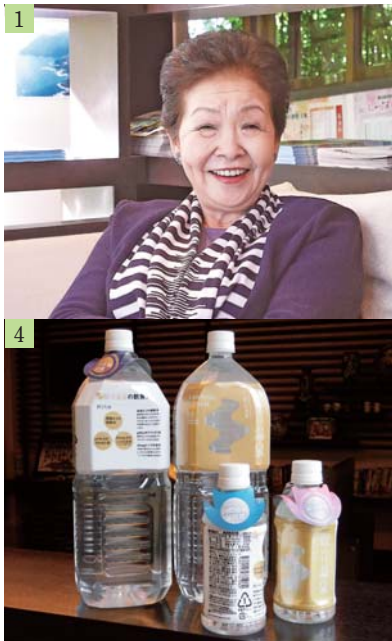
静岡県・下田市横川
「温泉を活かすヘルスリゾートづくり」
奥下田・観音温泉



女性には特にうれしい、皮膚をなめらかにするシリカを含む超軟水の温泉である

宿の 見どころ

- 1.明るく気さくな鈴木和江社長
- 2.客室は源泉かけ流しの専用風呂付き
- 3.近海の魚や、自家栽培する季節の野菜を中心にした食事
- 4.モンドセレクション最高金賞の飲むNO.1
- 5.勢運聖観音が迎えてくれる玄関
- 6.日帰り入浴施設「観音プリンシプル」は地元の人にも人気



旅の楽しみ

静岡県・下田市

黒船美術館がある。また、門前から港へ続く川沿いの道は「ペリーロード」と名づけられ、柳に石橋や石造りの蔵、木造の古民家などがレトロな雰囲気を醸す散策道として整備されている。宝福寺には唐人お吉の墓や資料館が、野水仙の群落地として知られる爪木崎への途中には、最初のアメリカ総領事館となった玉泉寺があり、こちらにはハリス資料館がある。黒船で密航を企てた吉田松陰ゆかりの地も多く、蓮台寺温泉には皮膚病を患った松蔭が湯治をしたという共同浴場と、滞在した屋敷が残されている。

ペリー艦隊の入港で、近代日本の幕開けの舞台となった伊豆下田。江戸時代から風待ちの良港として栄え、町には港町特有のなまこ壁をもつ商家や民家がいまも残っている。開国にゆかりの史跡が多く、日米和親条約付録協定(下田条約)を結んだ了仙寺(国指定史跡)の境内には約3000点の開国関係資料を保存する



ペリーロード

ペリー一行が上陸した海岸から了仙寺門前に至る川沿いの散策道。石積み
の古い蔵や木造古民家、石橋などが残り柳が揺れる一郭で、ティールームや小料理屋として利用される家もある。



下田開国博物館

なまこ壁が印象的な歴史資料館。ペリー、ハリス、唐人お吉のほか、安政大地震の際に沈没したロシア艦船ディアナ号の遺品など約4000点に及ぶ開国資料の中から、常時1000点を展示。



宿基本情報

●伊豆下田温泉「観音温泉」 TEL:0558-28-1234 所在地:静岡県下田市横川1092-1
基本宿泊料金:2人泊は1人につき1泊2食正運館19,590円～、本館22,830円～、ピ
グマリオン34,000円～、産土亭13,650円～、連泊の場合1泊目10,950円、2泊目
9,870円、3泊目8,790円のコースあり。日帰り入浴施設:観音プリンシプル11～19時、
大人1,300円、子供700円(休・祝日 大人1,500、子供800円) 泉質:アルカリ性単純温泉

※季節によりプラン・価格が随時変化します。詳細は直接お宿にお問い合わせください。

交通

伊豆急下田駅から送迎バス20分。車は東名高速 厚木ICから小田原厚木道路・国道135号利用で下田へ。414号へ入り質作で県道15号へ、横川の看板に従って左折して4*。または新東名高速 長泉沼津ICから伊豆縦貫道経由国道414号利用で質作へのルートもある

※お問い合わせ 下田市観光協会 TEL:0558-22-1531

「事業というものはね、世間に還元することができてこそ、事業だと私は考えているんです」
雑談の中に何気なく信条がまじる。観音温泉二代目社長・鈴木和江さん70歳。小柄で静かな口ぶりに似合わず活動的な女性だ。
静岡県下田市の郊外、国道から4キ
奥へ入った山林。およそ50万坪という広大な敷地を創業者である父から引き継いだのが昭和51年(1976)、今年で丁度40年になる。事業家であった父はまた、武道家でもあった。若者たちの鍛錬の場を作ろうと、土地を確保し温泉を掘った。その掘削中に観音像が出土したことから「観音温泉」の名が生まれた。父はどこを見込んだのか、長女である和江氏を後継者に選んだ。結婚してすでに二人の幼児もいた。
「いばらの道でも良い実があれば人は集まる。50年計画の事業だ。無から有を生み出すプロセスを楽しめ」父の言葉だった。広大な山林に道場と5室の宿を与えられ、全くの素人

から手探りで始まった旅館業である。苦しいこともあったはずだが、弱音をもらすことはなかった。
いまでは本館をはじめ4棟、55室を擁する見事な日本旅館に成長した。連泊用に料金をおさえた産土亭、2階が道場となっている正運館。本館には三世代と一緒に宿泊し家族会ができる客室も作った。新館のピグマリオンは和江さんの思いがこもった客棟。そのネーミングは自作の女神像に恋をし、望みを叶えたギリシャ神話の主人公の名前であり、「願ひ続ければ思いは叶う」という意味あいでも命名されている。産土亭を除き全室源泉かけ流しの風呂付きで、窓を開ければ露天風呂となる趣向。さらに大きな湯屋造りの別棟大浴場や日帰り入浴専用の「観音プリンシプル」も設けた。温泉熱と太陽光利用の自家用野菜栽培、pH9.5で超軟水の源泉を使った基礎化粧品、飲泉用のボトリングも事業の一環に加え、今まさに温泉を活かした総合的なヘルスリゾートへと発展している。



旅行作家
竹村 節子
たけむら せつこ

東京都出身。温泉雑誌、ガイドブックの編集者を経て旅行作家へ。2005年、第24回温泉関係功労者として環境大臣表彰を受ける。「旅行作家 旅の眼」編集長、一般財団法人自然公園財団理事、一般財団法人休暇村協会評議員。著書多数。近著に「わたしの温泉観光論」(2014年9月刊)がある。